



# かわいっ子

河合小だより

令和3年10月

「強く 正しく 温かく」－他者と共創し、主体的に学ぶ児童生徒の育成－

文責：学校長



## <ことば>でつながる人と人

吉岡 優

今月は、私たちが毎日当たり前のように使っている「言葉」について考えてみたいと思います。言葉を話せるのは、人間だけです。17世紀活躍した哲学者パスカル「人間は考える葦である」という名言を残しましたが、詳しく解説すると「人間は自然の中でもっとも弱い一本の葦のようなものだが、同時に考えるという能力をもったすばらしい存在だ」という意味です。(驚くことにパスカルは10歳前に三角形の内角の和が二直角(180度)であることや1からnまでの和が $(1+n)n/2$ であることを自力で証明しています。この2つの考え方は中学校で学びます。)



パスカル

では、人間の脳の重さがどのくらいあるかわかりますか。日本人の大人の脳の重さは大体1400g(体重の約2%)です。チンパンジーも賢い動物ですが、400gだそうです。チンパンジーは、チンパンジーだけに通じる鳴き声を発することはできますが、人間のように話することはできません。すなわち、しっかり自分で考え、言葉を駆使し、気持ちを伝え合うことができるのは人間だけということです。

身の回りの言葉を見てみると「あいさつ」も「ありがとう」も大事な言葉です。さらに言えば、**言葉は人と人とをつなぐ大事な道具**です。これらの言葉をどう使うかは、私たち一人ひとりに任せられています。皆さんは、自分が言われてうれしい言葉があるでしょうか？たとえば、「ありがとう、ごめんね、大丈夫？すごいね、頑張ったね、一緒にやろう…」などです。くらしの中で、お互いにこんな言葉を交わしたら、社会がますます楽しくなりますね。

また、人は考え方も感じ方も表し方もみんな違います。ですから、仲良くなるためには、相手のことをよく知らなければなりません。その一番の近道は、相手の言葉に耳を傾けること。最後まで、よく聞いて、相手の考えていることをわかろうとすることです。そうすると、相手の良さがわかってきます。相手の良さが見つかれば、その人との距離はぐんぐん近づいていでしょう。そして、言葉に「思いやり」というエッセンスを加えることでさらにつながりが深まっていくのです。

## 夏休み作品展

10月1日（金）から県下に発出されていた緊急事態宣言が解除されます。しかしながら、新型コロナはとても恐ろしいウィルスで、気を抜いているといつの間にか私たちを危険にさらすので、厄介なものです。ですから、私たちは今まで同様、いや今まで以上に新型コロナ感染症対策をしっかりとやっていきたいところです。



「河合っ子大賞」作品

さて、9月上旬に予定されていた「夏休み作品展」。残念ながら、保護者の皆様には直接見ていただくことが叶いませんでしたが、どれも力作ぞろいで、素晴らしい展示会となりました。そこで、「オンライン夏休み作品展」として<河合小だより（デジタル版）  
<https://sites.google.com/view/kawaisyo-ono>>にアップしていますので、ご覧いただければ幸いです。

## 「学びを止めない」河合小の教育



1年1組

1年2組

河合小では2学期が始まって学びのギアを一段アップしたところです。少し紹介します。1年生は9月27日（月）にヤクルト出前授業「おなか元気教室」を開催しました。「早ね、早おき、朝ごはん、朝ウンチ」をテーマにして、「①おなか（腸）のしくみ、②正しい生活習慣、③おなかの健康」の3つについて学びました。小腸の実物大模型が示されたときはその長さに「えー、すごく長いなあ！」とあちらこちらで驚きの声がありました。

4年生は9月16日（木）、社会科の授業で防災を学習しました。1995年1月17日、兵庫県で発生した阪神・淡路大震災により、多くの人の命や幸せが奪われました。その教訓をもとに設立されたのが「[震災・学校支援チーム \(EARTH\)](#)」です。そのチームの一員である河合中吉岡教頭先生、旭丘中西村先生をお招きしてお話をいただきました。日本は「地震大国」といわれ、毎年地震被害の報道がされています。しかし、「備えあれば憂いなし」とあるように日頃から、物心両面での準備が「防災・減災」につながります。さらに、「命の大切さ」もしっかり学びました。

